

保育づくり・園づくりの中心的な担い手の役割と資質に関する研究

松永 静子・汐見 稔幸*・村上 博文**

保研究実績の概要

本テーマでは2014年に全国の園長（担い手）にアンケート調査を行い、その結果をもとにインタビュー調査による質的研究として担い手の役割と資質を明らかにする目的で行った。今年度は1. 昭和の時代からの担い手5名、異業種から転職して担い手（園長）になった方7名を対象に調査した。昭和の時代からの担い手は戦後間もない時期に子どもの生きる権利、基本的人権を守ろうとして保育所を創設するなど、社会的役割としての強い使命感をもっていたことがわかった。また待機児対策で保育所を増設している平成の時代に異業種から転職した担い手らは前職の経験を生かし、保育を外側から見るなどこれまでにない視点を持ち、保育者にも新たな視点をもてるようリーダーシップを発揮していた。

またこれまでは福祉としての運営方針のみであったが、運営主体で企業立も増加し、経営の安定化を図るなどの成果がみられている。このように社会経済の急激な変化や女性の社会進出で保育所へ様々な要求が出されて、深刻な保育士不足や保育士の労働環境の改善など担い手の肩に重くのしかかる課題が山積みであることも調査からみえてきている。さらにインタビュー調査からそれぞれの特質は固有のものであり、多様であることも明らかになっている。また保育の質を向上していく人材育成には特別に担い手が力を注ぐべきであ

ると共通に周知していることもわかった。今後この研究をさらにすすめていくためには昭和の時代に築いてきた保育の歴史、思想などをふまえて、現在、そして未来の保育を構想しつつ、貴重な担い手たちの語り、ライフストーリーを分析し、オーラルストーリー研究としてまとめていきたい。

*白梅学園大学名誉学長
白梅学園大学大学院客員教授

**客員研究員
常葉大学保育学部講師